

「自然命平和」どくだみと共に30年

毎年6月、北総はどくだみ一色となります。この「北総の里」を毎号読んでくださっている皆様も「ああ、またこの季節がやってきたか」と思いながら、現在に到ります。

北総のどくだみ採りの源流は、武井園長の生まれ在所、信州にあります。山で自生しているどくだみを採り、干して乾燥させお茶にする。村のあちこちでそんな風景があり、武井園長が故郷を想う原風景となりました。それから時を経て北総の一員となり、この人たちと「働くこと生きること」を重ねる中で、北総のすぐ近くの山にもどくだみが多く自生していることに着

目し、北総でもどくだみ茶を作ろうと発案。当時所属していた農耕班の梅雨時期の仕事として、北総のどくだみ採りが始まりしました。その後どくだみ採りの仕事は林産班に引き継がれ、現在に到ります。

山に分け入ったどくだみ採りは人手がいる仕事。とても林産班だけでは賄いきれません。そこはたくさんの善意のボランティアグループの皆さんが力を貸して下さいます。「明るい社会づくり船橋市推進委員会」の皆様とはもう30年来のお付き合い。「継続は力なり」と言いますが、まさに皆様の活動そのもの。梅雨時期の仕事ですので、時には雨の中作業をしてもらうこともありましたが「せっかくならんだから！」と笑顔で働いてくださる皆様に、私たち職員は本当に多くのことを学ばせていただいています。また、保護者の皆様のお力も大きな助けになっています。「我が子のため



▲2016.6.10 東京新聞朝刊より

に」と90歳近い母が来てくれる。今はもう鬼籍に入った我が子、兄弟姉妹がお世話になったからと、生前と変わらぬ気持ちで足を運んでくださる。感謝という言葉では言い尽くせないくらい、本当に頭が下がります。こうしてたくさん善意に支えられているどくだみ採り。我々職員はただ単に季節の仕事としてこなすのではなく、自然に分け入り、自然の懐に抱かれ、生命の息吹を感じることができるとこの仕事から、人間としての謙虚さを、そして、支えてくださる方への感謝の気持ちを、まさに実

践を通して学んでいるのだと想います。そこには無心で頑張ってくれ林産班の頼もしい仲間がいることも忘れてはなりません。彼らは多くを語りませんが、毎年たくさんの方たちが自分たちの仕事を手伝ってくださることをきちんとわかっており、誇らしげな顔でどくだみ仕事に取り組みます。その表情は我々職員だけでは引き出せません。外の方の目が、手が、心が引き出してくれるのだと思います。

さて、この後続く記事もまさにどくだみ一色。文章量も多くなっておりますので、各記事の中で特に皆様にお伝えしたい箇所につきまして横線を引いてあります。どうぞ最後までお付き合いください。読み終わる頃にはきっとどくだみ茶を飲んでみたくなるはずです！ (絵鳩)

北総の里

発行日 2019. 7. 26
第 242 号
(第 1 回発行)
1974年4月1日
発行所 北総育成園
千葉県香取郡東庄町
笹川い5852
☎ 0478-86-3003
FAX 0478-86-3295

北総育成園のホームページが新しくなりました!

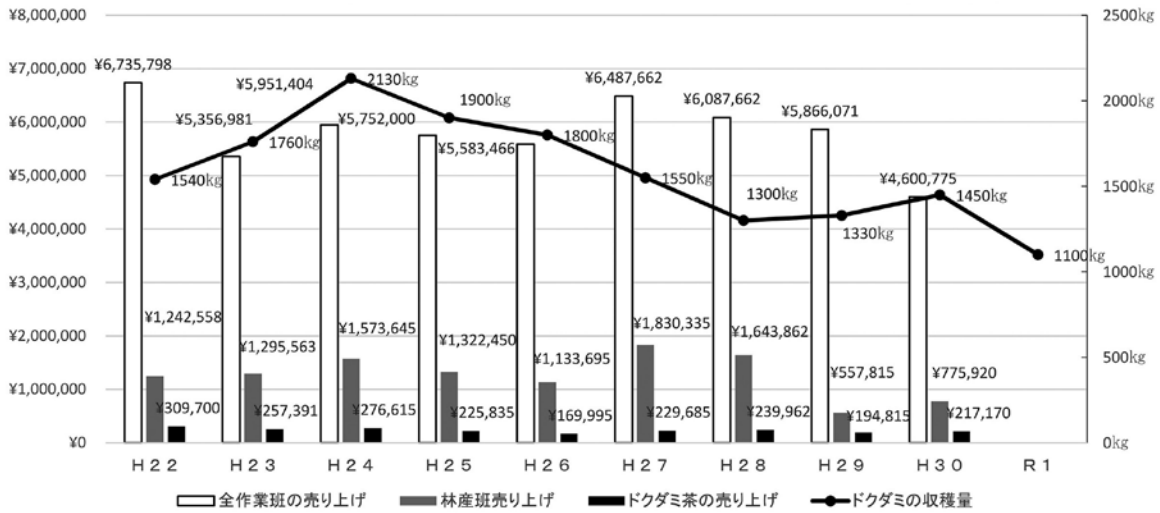
施設の概要や理念、利用者の様子、園長からのお知らせ等、盛りたくさん! ぜひアクセスしてみてください。

ホームページアドレス
<http://www.hokuso-ikuseien.org/>

Eメールアドレス
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

令和元年どくだみ報告

作業班全体の売上、林産班の売上、ドクダミ茶の売上、及びドクダミ収穫量の推移



コメント この表は、平成22年から令和元年までの10年間の園全体の売上、林産班の売上、どくだみ茶の売上及びどくだみ収穫量の推移を表したもの(令和元年はどくだみ収穫量のみ)である。林産班の売上の大半は生椎茸、干し椎茸であるが、どくだみ茶も平均して20万円程の売上を維持できている。毎年継続購入して下さるリピーターの方や、近隣の道の駅にも納品しておりコンスタントに売れている。また、北総でも食事時や職員朝礼時のお茶としてどくだみ茶を毎日飲んでいる。収穫量はH24年がこの10年では最も多いが、これはこの年にボランティア団体を導入してのどくだみ採りが5回と例年と比べ多かったことによる。H24年以降の収穫量は右肩下がりになっており、利用者の高齢化による影響も多少なりともあると感じる。令和初となる今年度のどくだみ収穫量も昨年度と比べると約350kg程減となっているが、これは毎年行っていた職員供出を止めたためである。(グラフ作成：加瀬)

① 初めてのどくだみ採り
 毎年多くの方のお力をお借りして取り組んでいる北総のどくだみ採り。また農耕班のらっきょう加工の仕事もこの時期を逃せない大きな仕事であり、同じく皆様のお力添えを頂いております。今年は6/6に「明るい社会づくり船橋市推進委員会」の皆様22名、6/13・14には保護者の皆様延べ34名がお力を貸してくださいました。この度ご感想をお寄せいただきましたのでご紹介いたします。

明るい社会づくり船橋市推進委員会
 第6スロック 森 奈三

6月6日、北総育成園へのボランティア活動に初めて参加させていただきました。施設で働いていたので、以前より興味はあったのですが、参加する機会がなく、今回は念願かない参加することができました。

どくだみの刈り取り作業を行いました。職員の方が言うには、今年の作業場所は平地であるとのことでした。足元も危なくなく、長めで刈り取りやすい、どくだみがたくさんありました。木々の中での作業は木陰があり、鳥の声が聞こえ、時々、吹く風にホッとしながらの作業でした。刈り取られたどくだみが束ねられると、北総育成園の利用者が運ぶ手伝いをします。自分の作業を待つ間、笑顔で立っている彼女は、やさしい気持ちにさせてくれました。束ねられるどくだみを待っている

彼は、仕事に対する真面目な姿勢を見せてくれました。作業で体を動かすだけではなく、心も動かされて帰ってくることができました。ありがとうございました。

② 明社の北総育成園の

ボランティアに参加して

明るい社会づくり船橋市推進委員会

後藤 幸子

6月6日木曜日、7時出発のバスの中、昨年より少なめと思われる24人の仲間と、香取郡の社会福祉法人「さざんか会」により開設された、障害者支援施設、北総育成園に向けて出発。園には知り合いのお嬢さんもお世話になっていたと、聞いたことがある。我々は2班に分かれ、一方はドクダミ茶を作るためドクダミを刈り束ねる作業、一方はらっきょう漬を作るため株



▲香取市栗源のどくだみが群生した杉山。明るい社会づくり船橋市推進委員会の皆様と。晴天に恵まれ151束約400kgも収穫することができた。R元.6.6

をくずし、らっきょうの形を整え皮をむく作業、今回2回目の私は昨年と同じらっきょう班、教えていただきながら黙々と作業開始。慣れるにつれ、口がほぐれて、おばさん・ガールズトーク。話の種が途切れ、疲れた時、丁度10時のおやつ。昔から10時、なる程、皆で感心。今日は暑くなるとの天気予報。屋根の下での作業で、時折緑の中から吹く風の気持ちのよいこと!! ドクダミ班は、大丈夫かしらと、心配しつつ、昨年作の美味しいらっきょうとお弁当でお昼をいただき、早々に作業に没頭。2時すぎ、20kgのらっきょうの終わりに程遠いが、ドクダミ班もそろそろ戻るとのこと、我々も施設に戻った。昔は朝早く、手弁当を持って電車で北総に行っていたと先輩方に伺った。40年の間には先輩方の地道な努力があったと思う。バスで連れて来てもらい、おやつ、お弁当をいただき、40周年記念ということで、手芸介護班の長い年月の経験と根気、集中力で作られた、可愛い布のティッシュ入れと使い易い袋まで頂き、美味しいパンと、玉葱のおみやげまで頂き、恐縮のかぎりです。その上に、「ありがと、また来てくださいネ」と、言っていただいて、体調に気を付けて、元気でいて、また来年も来なければと思いません。帰り際に、園で育て作った大根の切干、ほうれん草、らっきょう漬、昨年は全国的に放射線の事情で買えな



▲農耕班のらっきょう加工もお手伝いいただいた。手先を使う細かい作業を手際よく進めてくださった。R元.6.6

かった干椎茸もゲットして、帰路につきました。翌日から雨。天気まで応援してもらい、ちよっぴり疲れたけれど楽しかったです。ありがとうございました。

③北総育成園の ボランティアに参加して
 明るい社会づくり船橋市推進委員会 上村 米子

6月の梅雨入りの前日、快晴に恵まれ、北総育成園のボランティアに参加させて頂きました。1回目はドクダミ採りでしたがラッキョウの作業は4回目になりました。園の方々は笑顔で迎えて下さり、ラッキョウの根の切り方などの説明がありました。切り過ぎず残し過ぎないようにすることでした。9時から作業にかかり、「休ませてください」と園の方の声で一休み。昨年の顔ぶれもあり、初対面

の方もあり、その後は会話ははずみ、名前は?、年齢は?、等と次第に打ち解けて笑顔も多くなりました。年々高齢化してどなたも腰痛や膝の痛みを抱えての参加でしたが、そのようなことを忘れて時間を過ごしました。

ある方は家で飼っているインコが話をするとの興味深い話や、「皆さんだから話せる」と口頃の胸の内を話された方。貴重な体験をさせて頂きました。カローリを心配しながらの豪華なお弁当やタマネギのお土産など活力を頂いた感謝の一日でした。

④『ドクダミ採り』初参加
 植草 和也

今年から北総でお世話になっております。『ドクダミ採り』に夫婦で初参加させて頂きました。父親のわたくしは『ドクダミ採り』、母親は『束ねらっきょうの皮むき』をさせて頂きました。

梅雨とは思えぬ快晴夏空の下、初めての『ドクダミ採り』に不安を抱えながら……園のバスに揺られること約20分、『栗源の森』に到着。森の中に案内されると、カマとカゴとヒモの3点セットを手渡され「じゃあ、よろしく願います!」……。世の中は甘くありません! 他の方の様子を真似ながら『ドクダミ採り』開始です。ただひたすらに黙々とドクダミを採る。日々の憂さを一瞬忘れさせてくれる時間でした。今年目標

は150束でしたが、全部で170束の収穫があり目標達成とのことでした。皆さんと一緒に頑張った成果であり、とても充実感を覚えました。また、子供の様子も見ることができて良かったです。

わたくしは今、腰を中心に全身筋肉痛に襲われていますが、この日家に帰り風呂上がり飲んだビールの味は忘れられません。来年もまた『ドクダミ採り』がんばろう……。

最後に、この『ドクダミ採り』を毎年実施されている職員の方々や利用者・保護者の皆様には感心させられるとともに感謝の気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございました。

⑤ドクダミ採りに参加して
 平塚 悦子

初めてドクダミ採りに参加したのは一昨年のごとくでした。兄も林産班におりますので、是非一度行ってみようかと当時まだ自宅にいた弟を連れ2人でドクダミ採りに参加致しました。最初はどれがドクダミなのかもわからず職員の方から手順をおそわりながらの作業となりました。鎌でドクダミを採り籠に溜めていき紐でしばりトラックに運んでいきます。始めは私1人で採っていたのですが弟に採り方を教えたところ私よりうまく採っていたので2人でドクダミを採り私が紐を縛ったら兄がトラックまで運び弟が新しい紐を用意する、兄弟3人の

連携プレーで作業を進めていきました。今までなかなか3人で同じことをするといつことがなく、ほぼ初めての共同作業。思いのほか楽しい時間となりました。翌日からしばらく筋肉痛を増やすためにも是非毎年参加させてもらおうと思いました。

そして今年、前回の反省を生かし長靴を新調し、滑り止めのついた軍手を購入し万全を期して参加いたしました。朝、集合場所に向かっていると作業場に向かう弟に会いました。昨年から北総にお世話になっている弟は作業班が違つたため今日は一緒にいられません。少し残念ではありますが一緒に集合場所まで歩き手を振って別れました。園のバスに乗り山に到着、そこで兄と合流。「お兄ちゃんおはよう！今日は一緒にがんばろうね！」と声をかけ作業開始。ですが前回と違い兄がほとんど私の側に来てくれないのです。ドクダミを採り紐で縛りトラックに運んでもらおうと振り返ると兄がトラックの側で座り込んでいます。

「ちよっとお兄ちゃん！」と声をかけても知らん顔。前回の連携プレーはどこへいったってしまったのでしょうか？「もしや弟がいらないから私だってわかんないっやいやさすがにそれはないだろう」「いつもたったらすくそばにくるくせに今日は冷たいじゃん！」などいろいろ考えながらドクダミを

採っていきます。しかし籠に溜まっていくスピードが明らかに前回と違います。「そつが、前回は弟がいっぱい採ってくれたからか……私1人だと遅いなあ」弟のありがたみを感じながら黙々と作業を続けます。あいかわらず兄は私の側には来てくれませんが他の利用者さんが私のドクダミを運んでくれました。「ありがと」「もう少し待っててね。」他の利用者さんのやりとりも楽しく一緒に休憩しながら作業は進みました。

お昼に向かうバスで兄の隣に座り「ちよっと冷たいんじゃない？ちゃんと手伝ってよ」と文句を言いました。午後後も変わらず、兄は私の側には来てくれません。それでも他の利用者さんにドクダミを運んでもらい職員さんや他の保護者の方々とお話ししながら自然の中で体を動かすことはとても気持ちよく、腰や背中への痛みと戦いながら最後の作業を続けました。結局前回のような平塚兄弟の共同作業はできませんでしたが、兄のきまぐれはいつものことです。「来年は一緒にやっ

てよー」と兄にお願いし心地よい疲れと共に帰路につきました。そしてその後3日はかり筋肉痛に苦しみ、何日もドクダミ採り続けている職員の皆様は畏敬の念を抱きました。

1日だけではありますが皆の仲間に入れてもらっているようで楽しく参加させて頂きました。保護者の皆様、

職員の皆様、利用者の皆様と一丸となり汗をかいて働くことの喜びを教えたいと思っています。これからもできる限り参加し、皆と楽しい時間を過ごしたいと思っております。そして来年こそ平塚兄弟の連携プレーを復活させたいです！

⑥はじめてのどくだみ束ね作業
(令和元年6月14日晴れ暑し)
横尾 常夫

机に向かう仕事が半世紀、腰を悪くした私と、入院してベットに寝ていて圧迫骨折をした家内、私たちが夫婦に作業ができるか、かえって足手まといになるのではと少し不安をもって作業にやってきました。

何もできなくても太陽にあたって森林の空気を吸い、少し健康に過ごせばいいくらいに開き直っています。



▲保護者の皆さんとのどくだみ採り。この日も天気にも恵まれ174束約500kg収量を上げることができた。R元6.13

した。作業現場に行くとき皆さん既に作業をされており申し訳ないとの思いでした。作業の仕方を教わり早速束ねを始めました。

男子の利用者さんは束ねたどくだみを駆け足で乾燥させる場所まで運ぶ姿や職員皆さんのきびきびした動き、そして休みながら作業してくださいと細やかな配慮に感心させられた私たち。私たちは年に一度の作業ですが、職員皆さんは毎日の仕事なので頭が下がります。

人事労務の仕事は何十年とやってきました私には、職員皆さんの気配りと仕事ぶりに感謝とすがすがしさを感じ、腰の痛みも忘れ、とても気持ちよい汗をかき作業も進みました。

子供もそれなりにガンバっていると思いますが、今日はお父さんお母さんたちも頑張つて作業しているよ、という気持ちで束ねておりました。

また、作業しながら普段聞けない子供の様子も教えていただき感謝、家ではやらない食後の片づけもできているとのこと聞かせていただき発見がありました。職員皆さんのおかげで成長させていただいております。

海を渡ってくる涼しい風とウグイスの鳴き声にいやされ意外と上手く束ね作業ができたように思います。

お昼のお弁当も味付けがおいしく帰りにはおみやげまでいただき、心使

い本当にありがとございました。今日一日気持ち良い汗をかかせていただき、普段感じない心地良い時間を過ごさせていただきました。

子供を安心して預けられる園で本当に良かったです。職員皆さん、保護者の皆さん、今日一日ありがとございました。

とくだみ採りはもっと大変だったと思います。



▲我が子、兄弟姉妹のために集まってくれたたちははあにあねおとうといもつと、総勢25名。R元.6.13

最後に林産班担当のスタッフより感謝の気持ちを込め、とくだみ採りを無事に終えての感想を報告します。

■今年度もたくさんの方のご協力をいただき、無事にとくだみ採りを終えることができました。収穫量は昨年約1.5tからは減りましたが、約1.1tの量を確保することができました。4月

から気温が高い日が多かったせいかわ、太さ、葉の状態もこの時期にしては良いものが多く、群生地にも恵まれました。「明るい社会づくり船橋市推進委員会」の皆様は毎年北総のとくだみ採りを心待ちにして来ていただいています。園長とも30年来の長い付き合い合いです。その長い月日の中で築かれた信頼関係が毎年の来園に繋がっています。今年も天候に恵まれ、終日山でのとくだみ採りにさせていただきますました。皆様は最後までやりきる気持ちで来てくださり、利用者にも沢山温かい言葉をかけていただきました。

保護者とくだみ採りでは、保護者も高齢化に伴い参加できる方が限られている中、11名の方に採りに出てもらいました。この日も天気に恵まれ、終日採って174束という収穫を挙げる事ができました。この日収穫したとくだみは翌日も9名の保護者の皆様の応援をいただき束ね作業。この日も気持ちの良い晴れ間が広がり、最高の干し日和となりました。また今年も、生前北総を利用して中村康弘さんのお母さん、伊藤幸子さんのお姉さんが応援に来てくださいました。子、姉妹が鬼籍に入っても北総の為にとお手伝いに来ていただいたことに、ただただ感謝の言葉しかありません。

(チーフ 菅谷)

■北総のとくだみ採りは利用者や職

員の力だけでなく、多くのボランティアや保護者のご協力があったからこそ成り立っていると改めて感じる。年に一度自然と向き合い、鍛える機会。時には集まった仲間でワイワイと。時には目標の収穫を目指して黙々と。とくだみ採りは北総の文化と言えるものだと思います。そこで一句。

(サス 加瀬)

■この数年で利用者さんにも大きな変化がある。以前は元気に山に行き、とくだみを採って、皆にも採り方を教えていたHさんは足腰の衰えがきて山へ採りに行くことは難しくなっている。それでも自分にできる仕事はやること束ね仕事の方で頑張っている。年々、利用者さんは体が不自由になっできてできる仕事が減っているが、仕事に対する姿勢は衰えを知らない。自分たち、若い世代はできることがあるのに、楽な方へ楽な方へと行ってしまふ人が多い。そんな人達はこの人達の働く姿勢「働くこと生きること」を見て欲しいと思う。(スタッフ 鶴野)

■最初は職員が行っていた声掛けも、気付くとボランティアさん達も積極的に行ってきており、「お願いします!」「ありがとございます!」と触れ合っている姿があちこちに見られました。保護者ボランティアでは親子間兄弟間でペアになっていただき、息の合った様子で作業が進みました。



▲この日は9名の保護者の皆さんに前日に採ったとくだみの束ね作業をお手伝いいただいた。R元.6.14

とくだみを採りながら保護者一人ひとりに声を掛けさせていただき、利用者さんの外泊中の様子、子供の頃の話、兄弟の話や聞いたり、園での様子をお伝えしたりと、会話も楽しませていただきました。(スタッフ 西原)

■また2回しかとくだみ採りの経験がない私に菅谷チーフから心得を教わる。「採るのは2割、気遣い8割。皆さん、忙しい中来てくださるのだから快く作業をしていただくこと、頭では理解できるが、いざ本番となると体が上手く機能せず、西日とも採るの8割、気遣い2割」となっていました。今振り返ると、あの時あしていたら……、こつこつ対応できていたら……と後悔だらけのとくだみ採りになってしまった。この教訓を胸に日々努力していきたい。(スタッフ 桜井)

街道をゆく

140

特別寄稿

近藤原理先生からのお便り

◆連載「わたしの福祉論」⑦⑨

電話三題

長崎純心大学客員教授

(元・共同生活の家「なすな園」主宰)

近藤 原理



1 不審電話、判つてみれば

あれは4月12日土曜の深夜だった。電話に起こされ受話機をとるが無言のまま切れる。約1時間おきに朝まで数回続いた。これが不審電話の始まりだった。

平日の夜は1〜2回だが、金曜の夜から日曜にかけては昼夜関係なくかかってくる。無言。何もしゃべらず数秒で切れる。誰なのか。前日の11日に何かあったか振りかえる。午前は幼稚園の入園式に。夜は親戚の通夜へ。それとの関係はないかなど考えるが心当たりはない。

放つておいて。気にしない気にしないーと妻は言うが、ベルが鳴るとやはり眼がさめしばらくは寝つかない。睡眠不足でイライラ気味。そのうち電話は2〜3秒で切れるようになる。取らないうちに切れるのである。

6月になってナンバーディスプレイをつけてみた。しかし不審電話は2〜3秒で切れるのでかんじんの表示を読み取るのは容易ではない。そんなことで不審電話の多い深夜は、書き物も調べ物もできるだけ電話のそばでやることにした。ベルが鳴るとすばやく立つ

て番号表示を見るためである。

ベルに反応してすぐ受話機を取るのではない。ベルが鳴り続けている1〜2秒のうちに表示を読むのである。10桁みなを一度に読むわけにはいかないので、前でもいい、後でもいい、とにかく3桁くらいを先ず見るのである。もうこうなるとイライラから興味シンシンへと面白くなってくる。

とうとう7月初旬だった。一度目のベルで終わり4桁を、次の電話で初めの3桁を、そして三度目でやっと中3桁を読みとった。早速私用の住所録で調べてみると、なあんだ。8年前までわが家にいたY君のグループホームだ。「原理先生80になって死ぬ」とのメモを残して出て行ったあのY君ではないか。世話人のいない深夜などをえらんでかけていたのだろう。すぐ電話をしたが何の反応もなかった。

そんなことで朝になってから電話をしてみたら、ちょうど世話人さんが来ておられY君に取りついでくれた。でも、Y君との会話はうまく噛み合わない。一方的に「シンちゃんは」「リエさんは」「ともちゃんは」「犬のクロは」と昔の仲間や近所の人や可愛がっていた犬猫の動静をたずねるのだった。私はこのあと彼が大好きだった「九十九鳥せんべい」に手紙を添えて宅配便を出した。

※この近藤原理先生の特別寄稿は今から10年前、2009年に発行した北総の里第201号に掲載したものを、再編集しました。障害者福祉の礎を築かれた原理先生は一昨年ご逝去されましたが、先生が残して下さった多くの著書からは今なお、色褪せることなく皆さんの気づき、学びを得ることが出来ます。皆様とすることが共有できましたら幸いです。

太田川のほとり

136



北総では毎年、四千羽の鶴を折っています。その鶴はそれぞれ長崎、広島、沖縄、そして東北地方に届けます。いづれの地も、戦争や自然災害で甚大な被害を受けた場所であり、我々が同じ日本人として、その悲しみ、苦しみをいつも心に置かなければならないと思います。それが「平和なくして福祉なし」の原点であると思います。今回、沖縄への千羽鶴は沖縄なずな合宿でもお世話になっていいる蒼生学園の皆様

お願いし、沖縄平和祈念資料館に届けていただきました。学園長の川平先生よりお手紙を頂戴しましたのでご紹介いたします。



▲皆で折った沖縄への千羽鶴。平和推進課の堀川議員から武井園長に託された。R元.6.20

令和元年7月3日

社会福祉法人さきざんか会
北総育成園長 武井敏郎様
研究委員会 保科智子様

社会福祉法人蒼生の会
蒼生学園長 川平兼次

梅雨の候、梅雨空がつづきますが、北総育成園、利用者、職員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、北総育成園・研究委員会から、沖縄平和祈念資料館へ千羽鶴を届けてほしいとのご依頼がありました。

北総育成園、利用者、職員で平和の願いを込めた千羽鶴は海を越えて6月27日(木)に蒼生学園に届き6月28日(金)の朝の会で、利用者・職員に説明をし利用者自治会役員と一緒に贈呈してまいりました。ご報告遅れて大変申し訳ありません。

蒼生学園では、6月12日に戦争体験者の講話(いのちの尊さ、大切さ)、コーラスグループと一緒に月桃の花等を合唱し平和学習を実施いたしました。

蒼生学園の職員も「平和なくして福祉なし」という言葉を胸に平和、いのちの尊さを大切にしていきたいと思っております。

琉球新報の6月23日(日)(慰霊の日)、翌24日(月)の新聞を同封いたしました。

銚子名物ぬれせんべい、北総農耕班切り干し大根、林産班干し椎茸、ありがとうございました。沖縄による時はぜひご連絡ください。

令和元年5月25日 第6回須賀山城開山祭報告

平成25年4月、北総育成園創立40周年を記念して取り組み始めた須賀山城址整備公園化事業。40年間お世話になった東庄町への恩返しとして武井園長が発案した。東庄の原点の地ともいえる、東氏の居城「須賀山城」の城址は北総育成園に隣接しており、その一部は林産班の椎茸原木置き場として使わせてもらっていた。しかし、城址の大半は篠竹のジャングルと化していた。そこを利用者・職員が力を合わせ5年かけて切り拓き、多くの遺構が姿を現してきた。しかし、重要な一点が足りなかった。それは城跡から城下の村々を見渡したり、敵の襲来をいち早く発見するための見晴らしである。当園に近い千葉県の北部や茨城県南部地域には中世〜戦国時代の城跡がたくさんあるが、その多くが水田地帯に近接した台地の突端部、いわゆる舌状台地に築かれている。そのため本来見晴らしの良い場所のはずだが、ほとんどの城跡が長い年月の間に巨木に覆われ展望が遮られている。須賀山城址も同様で本丸の周囲はシイノキやタブノキの巨木に覆われていた。しかし、本丸の先に一段下がった曲輪(郭)があり、その先端に立つと樹々の間から水田地帯が垣間見えた。そ



▲本丸先の曲輪(郭)、名付けて展望テラスから見える笹川の町並みの先には利根川の流れ、そして鹿島灘が一望できる。来場してくれた地域の方に鎧兜姿で説明する筆者。R元.5.25

こで平成30年度はその整備を集中的に進めた。私たちが展望テラスと名付けたその曲輪のさらに下の曲輪には幸い巨木はなく、ハゼノキやツバキ等を切り倒し、短く切つていった。そこからは利用者の出番。須賀山城址整備をずっと手伝つてくれた石毛さん、石井さん、大河原さんの三人と若い職員で運んで片付けた。そして、この春には東庄中心部の全景が見渡せるようになり、その向こうに利根川と鹿島臨海工業地帯を望むことができるようになった。

5月25日の第6回須賀山城開山祭当日は快晴に恵まれ、地域の方々と一緒に北総育成園、なずな工房の利用者・職員が本丸に向かって急な坂を上った。皆、手作りの兜をかぶり、鎧武者や駕籠持ちもいて「エッサーホイサー」の掛け声も威勢良

い。時折聞こえる「ほら貝」の音の主は職員の西村さん。さすが元ブラスバンド部。一行は林産班の利用者・職員がきれいに整えてくれた道をたどり、土橋を渡つていよいよ本丸へ、そして今回はその先の展望テラスにも下りてもらい、雄大な眺めに感嘆の声をあげる人もいた。その後、野の花広場に移動しての舞台発表も現代の村祭りのような、風景に溶け込んだ素材で晴れやかなひと時だった。800年以上の歴史を刻んだこの地に、北総育成園の暮らしが連なつたように思わせてくれたこの日だった。7年後の千葉開府900年の整備を進め、地元の誇りとなるような場所にしていきたい。

(須賀山城址整備公園化事業チーム 高木恭一)

みんなの広場

■農耕班の役割と出番

北総に入職し、農耕班の所属となり早くも3ヵ月が経とうとしています。その日は玉ネギの収穫作業でした。作業中、高橋チーフと利用者のUさんが玉ネギがたくさん入ったコンテナを2人で協力しながら運びました。Uさんの「やる気」が自然と起こるような声

掛け、働きかけをしている高橋チーフの姿を見て、利用者の「役割と出番」を作るといふことは、このようなことなのかと感ずることができました。(宮澤)

■真夜中の「ありがとう」

初めての夜勤でTさんのトイレ誘導を行なった際に「ありがとう。」と言われました。自分が夜中に起こされたら「ありがとう。」とは絶対に言えないなと思いましたが。素直に感謝の気持ちを言葉にしてくれたTさんにとっても嬉しい気持ちにさせて頂きました。(矢野)

■初めてのどくだみ採り

林産班ではどくだみを採つてどくだみ茶を作っています。私の知つていどくだみは短くて小さなどくだみでした。林産班の応援で採つたものは長くて立派などくだみでした。採つて束ねての作業を、利用者さんの保護者の方にも手伝ってもらいながらのどくだみ採りは、利用者さんのことを色々聞くことができ、良い行事だと思えました。決して近い距離ではない船橋から足を運んで下さり、一緒にどくだみ採りをするのは、本当に利用者さんのことを大切に思つてくださっているからだと思つと、私も利用者さんを大切に思い、家族のような存在になりたいと思えました。(押本)

村議会だより ⑫③

今年で45年目の北総の里。昭和49年(1974)年4月に第1回目の村長村議員選挙が実施された。毎年、5月を改選月として、この45年間選挙戦が継続され、村長、村議員が選ばれた。その代表者による民主的な村の自治。ここにその歴史を言葉にする時間はないが、北総がこの人たちを大切にしてきた一つの拠り所として、この村議会制度は機能してきた。45年目で47回目の選挙ということで、その数字の誤差はどうして起こったのか? 気になるところだが、日本の国会を見てもその通りで、思うようにならない時代があった証拠であろう。

さて、今回の選挙戦について。第47期村議会選挙は5月16日(日)に行われた。今、日本の国の地方議会(特に村議会選挙)はその地域の過疎と高齢化で立候補する人がいなくて、議会が成立しないことが大きな問題になっている。北総の里もご多分に漏れずその通りで、20年前には立候補者多数で立候補取り下げをお願いすることもあったが、今日は職員が説得して「何とか立候補をお願いします」ような時代。

村長は福田氏と山本氏が立候補。一騎打ちとなった。山本氏は今年77歳の高齢だが皆の支持を良く集めた。村議員開票では大河原氏に早くから票が集まり、大丈夫と思って当確の花を付けた。が、その後、票が伸び悩み、代わりに石井氏の票が伸び始め、最後の5票が全て石井氏票という奇跡が起こり同票最下位。二人による決戦阿弥陀籤。結果、石井氏が勝つ。固唾を飲んでその行方を見守っていた職員・利用者から歓声が上がる。

結果としては実行力のある良い議会が出来たと思います。村長、議員に選ばれたプライドを持って、令和元年を良いものにしていきましょう。ご声援をお願い致します。(武井)

選挙報告



第47期 北総の里村長は

山本 泰三さん

▲第47期北総の里村長、村議員ここに誕生!
向かって右より、村長の山本さん、村議委員の堀川さん、安部さん、堀越さん、石毛さん、瀧波さん、石井さん。R元.5.16

第47期 北総の里・村長村議員選挙投票結果

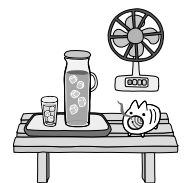
【村長】

Ⓧ	119 票	山 本 泰 三	77 歳	(現)
Ⓧ	81 票	福 田 克 三	68 歳	(現)

【村議員】

Ⓧ	32 票	堀 川 明 美	48 歳	(現)
Ⓧ	22 票	堀 越 正 明	63 歳	(元)
Ⓧ	22 票	安 部 百合子	68 歳	(現)
Ⓧ	21 票	石 毛 洋 平	39 歳	(現)
Ⓧ	21 票	瀧 波 和 衛	60 歳	(元)
Ⓧ	18 票	石 井 武 明	48 歳	(現)
Ⓧ	17 票	大 河 原 一 男	60 歳	(現)
Ⓧ	15 票	北 原 治 子	50 歳	(現)
Ⓧ	11 票	渡 辺 庸 一	58 歳	(元)
Ⓧ	9 票	斉 藤 敬 子	60 歳	(元)
Ⓧ	9 票	猪 瀬 美 佐 子	42 歳	(元)

編集後記



前号では「平成最後の…」とこの編集後記で書きましたが、今号は「令和初の」広報紙。北総の里の発行になります。平成から令和になり、早2か月。日付を書く際に、平成ではなく令和とスムーズに書けるようになってきました。

さて、令和初となる今号は、特集「どくだみ一色 自然 命 平和 だくだみと共に30年」と題しまして、まさにどくだみ一色の広報紙となりました。近藤原理先生が知的障害者と共に歩んできた日々の実践の中で紡ぎだしたこの「自然 命 平和」。原理先生はお兄さんを長崎の原爆で亡くされており、その体験から得た思いがこの言葉の根底にあるのだと思います。表紙でも触れましたように北総のどくだみ採りは、まさに「自然 命 平和」を實踐で学べる大切な機会。長い年月を掛けてそのことを一途に取り組み、利用者へのより良い支援に繋がってきました。最後まで読み切ってくださいありがとうございました。どくだみ茶を飲みたくなくなりましたか? ご注文お待ちしております! (絵鳩)